

マ・ヒョニをめぐる物語の追加に端的に表れているように、ドラマ版ではすべての「女性」キャラクターに最終的にパートナーが割り当てられる。セロイとの恋に破れたオ・スアでさえ、最終回の特別ゲストによって新たな恋が暗示されるのである。こうした追加は、女性としての成功には恋愛が不可欠であるかのように、視聴者に印象付ける可能性がある。

(3) 英雄譚への接近

最後に、表1の1・2・4の追加と表2の4の削除について考えてみたい。これらの変更は、セロイの父の象徴的意味を強化するものである。表1の1のように、セロイの父は長家の最大の強みとなる「味」を作り出したとされることで、彼こそが長家の真の「主人」であることが暗示される。セロイはその父の料理の才能を受け継ぐ正統な後継者であることも、「料理」という要素がドラマ版で強調されることによって（表1の4）、補強される。この変更により、チャン会長はセロイ父子が受け取るべきものを奪い取った敵として明確に位置づけられることになる。さらにウェブトゥーンではセロイとチャン会長の関係が、相互に存在を承認するような関係であったことを強く印象付けるシーンが挿入されていた。しかし、その部分は翻案において削除されている（表2の4）。このことによって、チャン会長とセロイの、強い父に挑む子という疑似的父子関係を思わせる絆の描写は後退し、チャン会長らを打倒することが実父の名誉を回復し、自らが正統なる主人としての地位をとりもどすことにつながる

る——という英雄譚的な構造が強調されることになったのである。表1の2にあるオ・スアをめぐる追加的な物語が存在することで、スアはセロイの父に背いたがために正統な道から外れ、自らのアイデンティティを見誤る「囚われの姫」として物語に位置付けられる。セロイによって、オ・スアをチャン会長の元から救い出すという目的がドラマ中で繰り返されるのも、セロイの戦いに正統性を与える要素になっているのである。

3-3. キャラクターの関係性の何が強調され、なにが取り去られたか

では次に、登場人物間のどのような関係性が強調され、また省略されたかを見ていくこととする。これらの関係性の強化や省略は、3-2で触れた物語の追加とも関連している。

表3 関係性の強調と省略

関係する人物	強調	省略
イソとスアとセロイ	1	1
イソとセロイ	9	
スアとセロイ	8	
スアとグウォン	2	
セロイとグウォン	2	
カン・ミンジョンとオ刑事	3	
スングォンとヒョニ	1	
グンスとイソとセロイ	1	
グンスとセロイ	2	5
グンスとスア	1	
グンスとイソ	1	
グンスとグンウォン		2
グンスとイソとセロイ	1	
会長とセロイ	1	1